

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 77
2022.9

TOPICS

1

令和4年度秋季学位記授与式を挙



9月22日、令和4年度秋季学位記授与式を本学創立五十周年記念館で行い、学部生・大学院生ら計138人が思い出深いキャンパスを巣立ちました。

式では榎野博史学長が学部・研究科などの総代4人に学位記を授与。学業成績と人物がともに優れた学生に授与する「岡山大学黒正賞」の受賞者1人に賞状を贈りました。榎野学長は「私たちは、皆さんが岡山大学で学んだこと、学位を取得して成し遂げたことを誇りに思っています。皆さんの今後のご活躍、ご健康、そしてご多幸をお祈りいたします」とメッセージを送りました。卒業生・修了生を代表して、大学院医歯薬学総合研究科のリヤンインさんが「岡山大学は、さまざまな国や背景を持つ学生が意見を交換し、経験を深めることができる環境を提供しており、感謝しています。美しいキャンパスと素晴らしいアカデミックな雰囲気は、私たちの勉強に大いに役立ちました」と、答辞を述べました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11483.html



TOPICS

2

岡山から世界へ次世代の夢を発信！ 「One Young World 2022 Hive in Okayama, Japan」を開催

9月8日、世界各国を代表する次世代の若いリーダーたちが一堂に会する世界最大級のサミットOne Young Worldの地域拠点で開催されるイベント「OYW 2022 Hive in Okayama, Japan」を岡山放送のKURUN HALLで開催し、高校生や大学生ら約100人が参加しました。

イベントは、岩田竜馬さん(薬学部4年)と出口杏奈さん(文学部4年)をリーダーとして企画運営を行い「Beyond the Dream -マイストーリーを原動力に-」をスローガンに、「Gender Equality」「Ethical Leadership」「Community」の3分野で活躍するリーダー達をゲストに招いて講演会やワークショップを実施。イベント後半には、岡山とマンチェスターをライブ中継で繋ぎ、参加者が「夢ボード」を掲げるとともに、スローガンの「Beyond the Dream」と呼び掛け、自身の夢を力強く世界に発信しました。イベントの最後に、岩田さんと石井誠也さんが撮影・編集したエンドロールムービーが放映され、盛況のうちに閉会しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11482.html



Pick up!

軟式野球部が全国大会で準優勝、 中国五大学学生競技大会で優勝しました！

第45回全日本学生軟式野球選手権大会が8月21～24日に岐阜県で開かれ、軟式野球部が見事準優勝しました。

本大会には、全国の各地区リーグを勝ち抜いた12大学が参加。準決勝の愛知大学豊橋学舎との対戦では、4回に2点を先制されたものの、5回、7回に1点を返し同点。8回に連携プレーの乱れから相手に1点を許したものの、その裏、タイムリーツーベース2本を含む4点を追加し、見事6対3の逆転勝ちを収めました。東海学院大学との決勝では、初回に1点を先制された後、3回に1点を取り同点としましたが、7回に2点を許し、惜しくも1対3で敗れ、優勝を逃しました。

また、同部は、8月29、30日に開催された、中国五大学学生競技大会の3試合に全勝し、5年ぶりに同大会で優勝しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11474.html



TOPICS

3

共育共創コモンズの学生見学会を開催

工学部及び大学院環境生命科学研究科では、8月23日に2回目となる共育共創コモンズの学生見学会を開催しました。今回は設計をテーマに、建設を請け負っている清水建設から設計本部木質建築推進部の長澤怜氏による講演と現地見学を行い、本学の学生その他、学外の大学・高校・建築関係者を含む約130人が参加しました。長澤氏からは、CLT(直交集成板)を使用した清水建設の木質建築技術の取組み、共育共創コモンズの設計上のポイントについて説明があり、参加者からは質問が盛んに寄せられました。

現地見学では、清水建設広島支店岡山営業所の瀬尾保昭氏の説明を受けながら、クレーンから吊るされたCLTを設置する様子などを見学しました。当日は、榎野博史学長、阿部匡伸理事も参加し、第一線で活躍する技術者の講演と本学の新しいシンボルとなる共育共創コモンズ建設の進捗状況を視察しました。共育共創コモンズの学生の見学会は今後も続け、10月には内外装工事をテーマに開催する予定です。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11465.html



TOPICS

4

大学院環境生命自然科学研究科を令和5年4月に設置

令和5年4月に大学院自然科学研究科及び大学院環境生命科学研究科を再編・統合し、大学院環境生命自然科学研究科を設置します。

本学では、グローバル化や少子高齢化、DX化など急速に社会が変化する時代の転換点を迎えている現代において、社会や企業のニーズや期待に応えるために、既存の枠組みを超え、大学院生が身に付けるべき能力を意識した学修者本位の学びを軸にした、大学院教育の質的転換を目指し、大学院改革に取り組んでいます。

理系研究科においては、基礎科学や応用工学の知識と技術に環境問題と食料問題に関する新しい学問体系を融合し深化することにより、自らが率先して課題を発見し解決するリーダーシップとトランスファラブルな力を有する「主体的に変容し続ける先駆者」として新たな価値創造と世界の革新に貢献する人材を養成することを目的に、既存の自然科学研究科と環境生命科学研究科を再編して「環境生命自然科学研究科」を設置するべく、文部科学省に申請していました。

この度8月12日付けで、環境生命自然科学研究科の令和5年4月からの設置が承認され、9月2日付けで設置報告書が受理されました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11454.html

PRESS
RELEASE

植物の鉄蓄積調節を担う短鎖ペプチドFEP1の機能を明らかに

岡山大学資源植物科学研究所の平山隆志教授と馬建鋒教授らの共同研究グループは、植物の鉄欠乏応答で重要な役割を担う短鎖ペプチドFEP1/IMA3の機能を明らかにしました。本研究成果は、8月22日、英国の植物科学雑誌「*Plant Cell & Environment*」のOriginal Articleとして掲載されました。

生物にとって鉄はなくてはならないミネラルのひとつです。鉄は使いにくい不溶性の状態です。植物は独自の方法でこれを可溶化して取り込み利用しています。一方、鉄は多すぎると有害なので、鉄の取り込み、分配、維持は厳密に調節されていると考えられています。平山教授らは、2018年に、植物の鉄欠乏応答で重要な役割を担う短鎖ペプチドFEP1を発見し報告しました。本研究では、FEP1が植物の物質の輸送・分配に関わる維管束組織の鉄の取り込みや分配で重要な役割を担っていることを、網羅的遺伝子発現解析や生理学的解析から明らかにしました。本研究成果は、作物の鉄吸収能力の向上を可能にし、さらにヒトの鉄摂取不足の解決につながると期待されます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1003.html



平山教授

